

英語教育 実技・理論 研修会 終了報告

テーマ	英語教育における小中連携	
日時	令和5年12月27日(水)	
会場	石狩教育研修センター	
講師	<p style="text-align: center;">萬谷 隆一 氏</p> <p style="text-align: center;">(北海道教育大学札幌校)</p>	
参加者	38名	
研修会 の 様子		<p>講師の萬谷先生は、小学校における効果的な英語指導法だけでなく、小中連携について長年研究されています。本セミナーでは、英語を指導する上での小学校と中学校の意識のズレをどのように埋めていくべきか、エビデンスをもとに解説されました。</p>
		<p>小中の意識のズレを参加者全員で共有するために、「10年前と比較して、中学校に入学してくる子どもたちの変化」、「不足している力」の2点について参加者同士、交流を行いました。結果として、参加者が実感していることには多くの共通点があることがわかりました。その点の打開策を、萬谷先生は、これまで積み重ねてきたデータを使用しながら、小学生に英語を指導する上で、最も重要な点を説明されました。</p>
		<p>英語を指導する上で、聞く話す活動から読み書きに移行していく手順を十分におさえてはならないことが改めてわかりました。英語に苦手意識をもっている子ども達の大半が文字への抵抗感があることがデータからはっきりしているからです。読み書きから入ると教師側は楽ですが、そこを変化させないことにはスムーズな英語科の小中連携はないということを深く理解することができました。</p>
		<p>萬谷先生は、他にも小学校における教科担任制や英語専科についてもふれました。ご自分の考えやあるべきシステムを一方的に話されるのではなく、参加者から経験や現状を発表してもらい、それに対してメリット、デメリット、工夫すべき部分を参加者目線でお話しされました。今後、小中一貫の英語教科部会でどのようなことを話題にすべきか、何を共通理解事項として教科経営をしていくべきかが明確になったと考えます。大変有意義なセミナーとなりました。</p>